

昭和15年6月1日（土）

幾分曇りつつ、遂に陽は射さず。真坂局長内室、逝去の通知あり。一円香奠発送す。ミワ氏を煩わし、封緘葉書に認め貰う。二階に休む野口氏、蚊帳吊らぬとも蚊居らぬと云ふ。午後より気温上昇。蒸し暑し流汗す。昨夜畳を水拭きしたる為、庭に搬出乾かす。此日より慶弔電報廃止の旨、新聞の別府便りに出現せしも、遂に其の事なかりし。

昭和15年6月2日（日）

曇り。森田氏執務。午後、金谷に貯金預け人を訪ぬ。二時頃よりスリッパ綻（ほころ）び手入れす。夕食鮎飯、母堂の丹精、詢（まこと）に難有し。此日も畳を乾かす。日曜と云ふに、終日忙しく過ごす。四時頃晴れる。

昭和15年6月3日（月）

晴れ、午後多少曇り。午後中津局に葉書請求。電報別便を要する旨照会に接し、中町に発信人を訪ね、料金を貰ひ来る。田尻の橋内氏臨局。申告書調製やる。広美、朝鮮野見山氏の世話にて退職の上、三十一日京城着、一日平壤に向かふとあり。唐津坂巻カネ代より手紙あり。妹給仕に採用され、二人にて自炊し居るとあり。畳乾したり。毒だみ巖の家より先日持来されしを、母堂蔭乾かしに丹精せられ、略（ほぼ）乾燥せし故、袋に収め措置せり。

昭和15年6月4日（火）

有料料金調査報告物の為に、午後より八時過ぎまで費したり。道子より来翰。東京に来たれとあり。朝の間冷氣

を覚えしも、日中は暑し。晴れ、後幾分曇り。報告物はミワ氏に発送依頼す。野口氏二十円過剰、過超金に事故あるやに付き、中津局主事に電話取調べを要求す。六月より過超金は翌朝まで保管の上、責任者の出局を俟って開披する由に付き、直ちに開査を要請せし処、山口主事より拾円貳枚不足の旨、電話あり。事故判明せり。報告物の集計に、西牟田氏の外、野口氏にも手伝ひ貰ふ。

昭和15年6月5日（水）

午前四時驟雨。相当多量に降る。夜明けと共に歇みたり。最近模様しつつも遂に降らず。此の日の降雨は、蓋し千金の滋雨とも思はる。午後より葉書請求、資金請求。昨電話料不足徴収に対する追徴に迫り、某を数回尋ぬ。曇天の俛、継続す。夜九時頃、巖来宅。事務室に案内し二郎問題通知す。呉教会長講演行脚の為、当地に来たり。九時の汽車にて到着に付き、迎えに来れる由。

昭和15年6月6日（木）

晴天。切手請求。此の日は葉書なき為、余行かず。午前中睡魔の襲ふ処となる。午後より法規保険編訂正、容易にはかどらず。森田氏の為、汽車時刻連絡を見てやる。

昭和15年6月7日（金）

朝、髯剃る。大分長く延びたり。曇天。此の日より防空演習開始。引続き一週間に及ぶ筈。中津局一戸一口保険大募集、既に三千の成績を収めたるやの新聞見ゆ。鶴居局長より一類事故多数に付き、防遏（ぼうかつ）方照会あり。具情回答置きたり。夜に至るも燈火管制なく平常と異ならず。

昭和15年6月8日（土）

晴れ曇り、相半ばす。四時半頃より飛行機の低空飛翔、
裏々（ごうごう）の音、頗る騒々敷きものあり。森田氏、
三時の汽車にて郷里に皈る。総て汽車を利用す。七時頃
到着の筈。此の日切手請求、余行かず。

昭和15年6月9日（日）

晴れなるも風強く、砂塵を卷く。午前中訂正物、次いで
スリッパ補修、四時中途夕飯の為中止。野口氏、巖の家
に行き八時頃皈らる。菖蒲湯、旧節句なりけん。此の朝、
便所掃除。ミワ氏毎朝掃除さるも、余は頃日、毎日曜日
実行するに過ぎず。野口氏より聞く。巖方変わりなし。
信子、眼科に数日かかりし由。智子、未だ歩けぬ由。消
化不良は最近恢復せし由。信子は歩き廻り居ると云ふ。
夜冷氣。襯衣類洗濯貰ふ。

昭和15年6月10日（月）

晴れ、朝冷氣。鼠多き勢か、蚤（のみ）多し。森田氏
午後0時半到着。幸袋局長の名刺持参。便覧の訂正、
山程到着。バラバラになり整理に骨を折り、遂に官署名
録附録上巻を残したり。七時引上げたり。敷布団乾かす。
ミワ氏共済年金来る。外に切手より20円、即時払います。
今月の経済補填。

昭和15年6月11日（火）

頃日、朝は頗る冷ゆ。昨天皇陛下午前十二分、皇
受大神宮、午後一時五十四分、皇大神宮御親拝を期し、
局員一同と東方遙拝、公衆之に倣ふ。此日午後0時30分、

葉書受取りに中津局行き。ミワ氏、四時より歯医者に行かる。訂正物挿し換えを了せり。野口氏40銭過剰、豊田町某に、40銭剰銭をやらぬようなりとあり。ミワ氏豊田町に某氏を訪ふ、不在。午後四時再び訪ねたるに、在宅しあり。遂に受取らぬらしと云ふ。此夜ミワ氏、共済年金初交付。自祝、落花生を求め来らる。猶、歯療治に四時より行かる。五日を要すと。

昭和15年6月12日（水）

晴れ。ミワ氏、正午に歯科医かかり行かる。余の文書堆積に対し、整理して貰ふ。松吉新十郎氏来局。児玉頼美氏門司局長となりたる付き、祝電発送の為臨局。同氏は胃潰瘍の為、三月以降欠勤中の由。未だ全快に至らずと云ふ。子供中学に居る為、家族を当地に残し居る由。

昭和15年6月13日（木）

快晴。葉書二千枚請求。午後0時20分、受取りに行く。去る五月九日、森田氏扱い20円即時払い、通帳に記入を洩らせる為、中津局にて其の後23円即時払いあり。取調べたるに、中津局にても尋ね居る由なるも不明の由。防空演習終了したるやなりも、燈火管制さへも、施行を見ざる裡に終熄するに至る。

昭和15年6月14日（金）

晴れ。九時中津局にいたり、昨日の貯金事故名義人を調べ。取締りに質せしに、昨日と同様の返事なり。其の旨逡信局へ報告す。

昭和15年6月15日（土）

曇り、朝の間降雨。午後歇む。中津局に葉書受取りに赴く。振替証書に經由日附印洩れを、中津局に持ち行く役目も果さねばならぬのを忘却して出掛けたるを、野口氏余を追ふて来らる。竹内光線研究所近所にて、逐（お）い付かる。此日は葉書六千。平素よりは二千多し。幸に雨歇みたれば、擔ぐに苦辛（くしん）せざりし。午後一時より仕度し、ミワ氏土産にと求めらした丸ボー露を抱え出発。小倉よりは満員の列車ながら、幸いに座席を得たり。五時到着。久子山中電氣に一円にて採用。六時過ぎ帰宅。髭剃り、柳原先生かかり行く。八時半、村上氏、栗原氏等七八名。午後十一時過ぎ閉会。午後十二時帰宅途中、降雨。和傘と高齒下駄穿きとて、濡れざりし。

昭和15年6月16日（日）

朝来降雨。朝の間、久子新柳町に買い物に行く。午後より再外出、夕方販る。先週広瀬末一氏洋傘持参、一泊せる由。夕食の為、久子隣家の正岡さんとデパートに行きたるに、広瀬氏より馳走に預かりし由。南洋土人製のバスケット、土産に持来らる。曇天の儘、暮る。

昭和15年6月17日（月）

夜降雨。障子を開放の儘寝たる所、蚊帳しつとりと濡れたり。ミワ氏より来翰。電話料金不足事故の件、返事出す。貢氏へ新しいワイシャツ、及び普通半袖富士絹シャツ等、小包にて発送せしむ。澄子も簡単服、発送する由。釦求めにデパートに行く序でに、十七銀行支店に金受取らしむ。百十四円九十二銭を得たり。四時頃より次第に晴れ。

昭和15年6月18日（火）

晴れ。毛布等日光消毒。貢氏へ小包梱包。澄子朝の間郵便局に持行きたり22。此の日道子に手紙書く。下帯等洗濯す。風強し、夜より朝にかけ冷氣。

昭和15年6月19日（水）

晴れ。朝蚊帳を乾かす。午後より外出。松屋及び岩田屋に至り、何も買わずに戻り、市場にて神柴二把、5にて求め四時過ぎ飯る。上原氏より葉書あり。官房規画課勤務とあり。七月に九州に出張する旨、書かれてあり。中津駅前では都合がよいともあり。ラジオ聴きつつ蚊帳の中に入る。澄子等は蚊帳を吊らず。大きくて始末に悪いと云ふ理由らし。蚊遣り香を炊くは不経済の極みと思ひぬ。

昭和15年6月20日（木）

晴れ、夜来冷ゆ。久子の職業婦人は、藤岡より差止め意思表示したる如し。荷重にて努力するも、見込み自信がないらしい。鍬を求めに一元遣りたるに、昨日売り切れたる由。大いに当惑せり。寝巻類乾かす。

昭和15年6月21日（金）

晴れ。此日夏至、日の永い最大の日。明日より次第に短くなる。新聞及びラジオにて、無集配局取扱時間短縮され、午前八時から午後六時となり、日曜は午前八時から正午となる。昨、年金受取りに簗島局に至る。先方より余の素性を暴露されし為、余も色々話したり。小坂、坂巻、北野各氏に手紙を発送せり。此日も毛布類、日に晒せり。広瀬氏土曜日来宅の葉書に、澄子に馳走の準備を

為さしむ。

昭和15年6月22日（土）

此の朝ミワ氏より、日曜に部会を耶馬溪倶楽部にて開催する由にて、余の出席を求め来らる。到底に行けぬので、返事出しおく。広瀬氏の為に、澄子色々買物す。酒は出さぬことにす。然るに五時になるも見えず。当惑せり。御馳走は勿論、余独りで食べ切れず。夫れに久子が販ると同時に藤岡かかり行き、飯を食へる余裕なきものの如し。澄子憤慨、余も余計な品物を食はされ、腹の虫も驚きたるらん。併し幸に異状なかりし。曩に藤岡の長女を広瀬に媒介せるに対し、それには返事せずして、隣家の正岡氏を貰ひたき旨、直接照会越せる由。日曜日、太宰府に散歩せんと勧誘し来たりし趣なるも、返事は出さざりし如し。広瀬氏の土曜日に見えざりし理由も、其の辺に胚胎し居るに非ずや。唐夾み80銭にて求め来る。砂糖と菓子澄子の心竭（つ）くしに出来（しゅつらい）せり。砂糖は南洋産、広瀬氏の土産菓子は藤岡氏東京の土産。晴天、風割合少なし。夜は冷ゆ。

昭和15年6月23日（日）

薄雲かかり北風強く冷氣。澄子正岡氏と外出。昨日百合満開五、蕾三、これも広瀬氏を迎ふる準備と見られたり。午後四時、剃刀研ぐ。澄子未だ販らず。久子、米一氏来たりし如しと云ふ。少時して、果たして同氏及び電話局勤務の同氏の友達と来宅。二時間程色々話し、両氏と何れにか退去。生菓子幾個か持参、其の儘出す。昨日求め置きしを出す。久子の為に半吊り二枚与ふ。藤岡に持行く桃色の洋服を求め着用、初に藤岡に見せに行きたる

らし。夜、理髪し貰ふ。

昭和15年6月24日（月）

多少薄雲あり。夏和服二、足袋、蚊遣り香二箱78、南洋砂糖、東京土産菓子、唐鋏等二包みを抱ひたり。小倉に一時間待たさる。ミワ氏駅に待たる。巖、留守中訪ね来たりたる由。手当79円及び現金手当到着。森田さん浅蜷貝沢山呉れらる。夜、其の御馳走あり。

昭和15年6月25日（火）

曇り、蒸し暑し。昨日より取扱時間短縮、八時から六時、為替は八時から三時。土曜日は正午までとなる。巖来局。靴借りたいと云ふ。茶菓子給す。土産に遣り、局員にも分配す。

昭和15年6月26日（水）

降雨、驟雨性を帯ぶ。角野歯科医、ミワ氏今日限り。奥さんより色々事業方面に対し盡力を頂く由縁を得たり。道子より手紙。襯衣の返事及び二郎を見舞ふべく、静江氏を招きたる由にて、数日滞在の筈とて、二郎と面会したる模様など書連ねあり。

昭和15年6月27日（木）

朝の間降雨。午前八時三十分、角野医かかり行く。奥歯腐蝕しあり。金冠取外したり。巖来たり、道子の手紙を示す。月掛け二つ加入せしむ。角野氏四名が入さる。野口氏現金不符合。七時を過ぐ。拾円余不足と云ふ。文夫に参円櫛料送付。昌江7月5日にて一年祭の祭祀を行ふ旨、通知あり。午後より曇り、此日涼し。午後十時に

至るも、事務室の掃除を初めて容易に終了せず。十時半寢床。十一時を聞き睡る。水浴せざるも可。

昭和15年6月28日（金）

曇り、後降雨。午後0時半より葉書受取りに行く。野口氏欠損判明。利札抽出の中より表れ、拾銭の利札受入簿の書違いなりし。佐世保より煎り子沢山。絹煎り子及び砂糖二斤程入れてあり。ミワ氏活動、月賦十四を獲たり。向かひの家より家賃届いたとて、隣家の林より拾五円届けらる。今朝合馬氏に受渡し口を設けることに関し、諒解を求めたる際、肉屋に貸置く家に対し、家賃を受取らぬことを話せし由に付き、合馬氏の心添えにもやと後刻問合わせたる結果、相違せる旨答弁を得たり。澄子より東北電気の配当金請求書、送付越しあり。

昭和15年6月29日（土）

午前八時二十分、角野歯科医かかり行く。降雨。先生朝寝より起床せぬらし。先客二名待居る。此日、分類所得税徴収講習会に出席の都合あり帰宅。此朝、髯剃る。九時二十分中津局に至る。十二名参集しあり。十時より開会。経理課歳出係、仙波書記臨席。徴収事務要領に依り説明。欠席五六局あり。午餐弁当及び菓子等頒配あり。時々豪雨あり。ミワ氏月賦貯金奨励の為、雨を冒して外出。遂に二日間にて二十件を獲ち得らる。講義は午後五時終了。切手は西牟田氏、受取りに行きし由。帰局後、七時過ぎまで勤務。此の間、午後四時半、角野氏かかり行く。小学校女生徒多数居る。此等生徒が済むまで新聞を見て居る。

昭和15年6月30日（日）

例に依り便所掃除。母堂、萩餅、さる幾許宛て、野口、森田両氏に頒つ。午前中豪雨。二階雨漏り、畳を剥ぐ。竹屋の方でも雨漏り、畳取除き居れり。午後一時過ぎ、ミワ氏野口氏、月賦貯金勸奨に外出。電報原書整理。巖、月賦貯金申込書に認印押捺し、昨日出局の由。其の際、煎り子を遣りたりと云ふ。四時頃より冷氣、雨も歇む。昨日迄は、雨は未だ不足の向きあるやの噂ありしも、此日は寧（むし）ろ出水の惧さへ認めらるる如し。午後九時過ぎ、駅前より本町を通り、裏道路より販る。十時両氏販る。月掛け数件を獲、神様に詣り販らる。